

学校評価計画書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考		
1	①	授業改善を進めて、基礎・基本の定着を図る。	教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	不登校を経験しているなど多様な生徒がいるため、学力差が大きい。	【努力指標】 授業改善に取り組み、わかりやすい授業を実施し、生徒の理解力を深める。	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	前・後期の2回調査 授業評価を活用
	②	基本的な授業態度の徹底を図り、生徒が集中し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	授業態度は落ち着いてはいるが、受け身の生徒が多く、学習に対して消極的な姿勢が目につく。	教務課 各教科	【成果指標】 生徒が意欲をもち、積極的に授業に参加した。	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	前・後期の2回調査 授業評価を活用	
2	①	学校生活全般を通じて、コミュニケーション能力・自己表現力の向上を図る。	生徒会役員による生徒会だよりの発行、挨拶運動等を通して、生徒間のコミュニケーション能力の向上を図る。	生徒指導課	生徒会活動は活発化してきているが、生徒会役員以外の生徒との温度差が見られる。	【成果指標】 生徒会役員が主体となって行う活動が増加した。	生徒会役員が主体となっていく活動が、 A 年間15回以上行われた。 B 年間10回以上行われた。 C 年間6回以上行われた。 D 年間5回以下行われた。	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	年度末に調査
	②	教職員の生徒理解やコミュニケーション能力の向上を図るとともに生徒指導の円滑化を目指す。	本校教職員は、これまでも生徒への個別対応等を丁寧に行ってきたが、多様な生徒に対応するため、さらなる取り組みが必要である。	生徒指導課	【成果指標】 生徒理解やコミュニケーションに関する情報交換会・校内研修会を開催した。	生徒理解のための情報交換会やコミュニケーション関連の校内研修会を A 年間15回以上開催した。 B 年間10回以上開催した。 C 年間6回以上開催した。 D 年間5回以下開催した。	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	年度末に調査	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
3	キャリア教育を推進し、個々の進路実現を目指す。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導 課	現在、就業していない生徒が6割前後いて、そのなかでインターンシップの希望者が少ない。	【成果指標】 就業していない生徒が、就業体験を通して勤労観・職業観を身につけ、自立する能力の向上が見られた。	現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	8月と2月に調査 生徒
		② 教育振興会会員と学校の繋がりを強め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	会費納入額が減少し、総会案内の返信が五割以下であるなど、会員と学校の繋がりが充分とはいえない。	【努力指標】 会員への情報発信量を増やし、学校への関心を高める。	就職・就業体験を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 2社以下である	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	8月と2月に調査
4	基本的生活習慣の確立に努め、心身ともに健康な体をつくる。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者へのはたらきかけや、雇用主への協力依頼を行う。	生徒指導 課 各担任	怠学や仕事の疲れによる欠席・遅刻・早退が若干ではあるが見られる。また、不登校傾向による欠席・遅刻・早退も見られる。	【成果指標】 前年度に比べて意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が増えた。	前年度に比べて、意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	9月と2月に調査 生徒
		② ストレスマネジメント教育を継続し、ストレスへの対処能力の向上をめざす。	保健厚生 課 教務課 各担任	本校は自分に合っていると感じている生徒は9割に上るが、学校が楽しいと感じている生徒は5割程度に留まっている。	【成果指標】 学校が楽しいと感じている生徒が増加した。	学校が楽しいと感じている生徒の割合が、 A 70%以上である B 55%以上である C 40%以上である D 40%未満である	CまたはDの場合、取り組み方法を再検討する。	前・後期の2回調査 生徒